

これからの行事（6月の行事）

- 2日 第5回事務局会議
- 4日 高齢者健康体操
- 5日 衛自連総会（川内）
- 〃 地区コミ全体会（川内）
- 〃 48区会長会議（川内）
- 13日 主事連絡会 ZOOM
- 15日 地域内清掃
- 〃 高齢者サロン
- 16日 第6回事務局会議
- 18日 高齢者健康体操

天候を見ながらの芋植えをします

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和7年度6月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村 史傳

編集 中村美也子

令和7年6月 5日発行

薩摩川内市下飯町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

下飯マラニック開催

五月十一日日曜日 下飯ぐるっとマラニックが開催され参加者二十八名で朝七時に手打浜をスタートしました。五カ所の関門を通過し五十四キロを走りぬけるといっても過酷な競技のように思えました。各地区のコミュニティがそれぞれのおもてなしで選手の皆様に激励しました。西山地区では当日の朝、草餅をついて丸めてあんこやきな粉でアレンジしました。西山の関門時間は十時半でしたがトップの選手は九時過ぎには笑顔で到着しました。草餅を食べ、水分補給をされ ナポレオン岩で写真も撮れるほどの余力をもってタマゴ石に向けてスタートされました。それからも続々到着されました。二十二キロも走って来たのに殆どの方が手を上げたり笑顔で走って来ました。見ている方も笑顔になりました。選手の皆さん、ボランティアの皆さんお疲れさまでした。

中村美也子



海岸清掃活動

五月十八日 前日の雨で心配されましたが、当日雨も止み やつと海岸の漂着物の大掃除が出来ました。三十一名の方が協力してくださり一時間足らずの作業で海岸はきれいになりました。

海岸清掃の数日前に浦島に泊まられていたご家族があまりにも海岸が汚れていたため、ゴミを集めてくださったそうです。西山出身の方で、きつと昔のきれいな海岸を思い出され、汚れた海岸を見て、いたたまれなくなつたのだらうと思います。ほんとにありがとうございました。

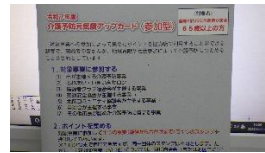
海岸だけではなく、道路へのポイ捨て等も止めてきれいな西山にしましょう。



ご協力ありがとうございました

西山高齢者クラブの活動

高齢者クラブでは月二回の健康体操と 月一回の高齢者サロンを開催しています。 それ以外にもグランドゴルフ大会やペタング大会にも出場しています。 西山らしさで言えば週一回のお灸の日等も活用して元気に長生きしましょう。



カードに印鑑もらいましょう

健康体操の様子です。 毎回楽しく体を動かして健康で長生きしましょう。



故郷を探る ②⑥

センダン（梅檀）の花

団塊の世代より、すこし年少の世代まで小学校高学年の音楽で「夏は来（き）ぬ」という唱歌を習われたと思う。佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲で一九六六年（明治二十九年）に発表されて百二十年以上も歌いつがれている。

この歌は学校では「卯（う）の花の匂う垣根・・・」の一番の歌詞から「五月雨（さみだれ）のそそぐ山田に・・・」の二番、「五月闇（さつきやみ）螢とびかい・・・」の三番までと思っていた。カラオケでこの歌を歌おうと選曲したら、五番まであつてとまどった。四番目の歌詞に「棟（おうち）ちる川辺の宿の門遠く水鶏（くいな）声して夕月涼しき夏は来ぬ」があつた。

この中の「棟（おうち）」がどんな木でどんな花がさくのか知らずシンヌウラで聞いたことも見たこともないので、シンヌウラにはこんな樹木はないと決めつけていた。これが七・八年も前のことだ。

それが昨年の夏、またもや同歌を歌い、「棟」をそのままにしておけず、漢和字典や広辞苑で調べた。

「棟（レン）」とあり旧仮名づかいで「あふち、せんだんの木」ともあつた。広辞苑では「おうち（棟・樗）センダンの古名花は夏・実は秋」とあつておうちとはセンダンであることが判明した。センダンの木は学校への道の旧工作室（消防貯水槽）付近の空き地に生えているのは知っていた。ところが昨年は花季が終り秋に実がなっているのは確認できた。

今年は花を見ようと気を付けていたので五月十二・三日頃から咲き始め十四・五日はうす紫色のかれんな花が今を盛り、

に咲き誇り「おうち（棟）の花」を確認したときである。

考えてみれば「センダン（梅檀）」は小学校東側に山桜と並んで植えられていた。九州地方の学校では、中国のことわざ「梅檀は双葉より芳（かんば）し（大成する者は幼い頃からすぐれた素質を表すものだ）」にちなんで、センダン（おうち）が植えられるという。中国の梅檀はビャクダンなどの香木で、日本のセンダンとは違うらしい。

それはともあれ西山小学校のセンダンもうす紫の花をつけていたはずなのにとんと記憶にない。

それより記憶に残るのが隣の山桜の木だ。山桜は実を付けて熟れて赤紫から黒紫色となる。桜桃「佐藤錦」には及ばないが酸っぱいのもなんのその、かつこうのフルーツだった。こんな小学生はうす紫のかれんな花より黒紫のサクランボの方に大いなる関心を向けていたのだろう。食意地については「センダン」は双葉より芳しであつた。我々にとつては「おうちの花」よりドガンス（ホウロクイチゴ）、ノーショイチゴ、カノナイメ（桑の実）、ヤマモモの方がはるかな関心事だった。

中村史傳

